

后宮 中宮 春宮 准后 乘青糸毛前後有庇
更衣 典侍 尙侍 乘紫毛車

〔輿車圖考〕四糸毛車

淺浮抄云、ピロゲ、イト毛、同ジ物ナリ、ピロウヲ細クワリタレバ、糸ノヤウニ白ク、ウツクシク見
ユルナリ、名物ノ青糸毛モ、コノワリタル細キピロウヲ、青ク藍ニソメタルナリ、

この説はうたがはし

〔空穂物語 嵯峨の院二〕御車宮の御方に十女御の御かたに甘いとげ六びらうげ廿うないしもつ
かへ車ふたつづ、ひとたまひどもは、これかれいだし給くるまのくちつきども、さうぞくとも
のへかたちもえらびて、十人づ、つけたり、

〔紫式部日記〕御こしには、藤原彰子后宮のせんじ乗る糸毛の御車にとの、うへ彰子父道少輔の
めのと、若宮一條後いだし奉りてのる、

〔扶桑略記三〕河承保二年正月十三日丙午、中宮賢子藤原 自定綱朝臣洞院宅遷御東三條第、用鳳輦、皇
子文敦 絲毛車駕殿上侍臣并朝大夫勤仕前驅、

〔爲房卿記〕寛治六年三月四日丁亥、院并中宮渡御鳥羽、中宮令駕糸毛車給、貞信公御車、自殿被獻之、
人、束帶無糸毛金作騎馬女藏人、諸衛供奉如例、
步行

〔中右記〕元永元年五月十八日、晚頭參院、糸毛車所被作也、御車、皇后累代之所用給車、殿下藤原相
傳給車也、以件車爲本樣被作摸也、是中宮御料也、

〔長秋記〕大治四年四月十九日丁卯、齋院三年祭了、入給于野宮之御禊也、中頭辨云、今朝行事、上卿
大納言宗忠卿稱先例、一車料被申請攝政家鞞攝政藤原云、糸毛車、芋鞞付杏葉所用也、

〔台記〕康治元年八月十三日癸酉、定女御代雜事、中讀長元九年定文、依爲吉例也、諸事如長元、但長